

# 第1回子ども・子育て支援会議、及び会議後の照会による意見整理

## I. 親育ち・多世代にわたる子育てエンパワーメントの向上

### A : 親の関わり、支援

- 子育て支援は大人の支援
- 今の子育て世代に「我が子にどのような人間になってほしい」か、そのために今の行政に足りないものは何だと考えているかを知りたい ⇒ 子どもの成長と発達面
- 親を対象とした活動を進めることが重要。また各校区の「子育て支援協議会」の運営が課題。大人同士のつながりを深めることが子育て力の向上になる。
- 「仕事と家庭の両立支援」は具体的に何が不足しているのか。
- 「経済的負担の軽減」は、子育ての経費をすべて公費で賄うようにすると、親の責任意識が薄れる
- 親の指導が課題
- 赤ちゃんから小学校に入学するまでに、保護者同士の交流やどんな子育てが必要なのかの講演会を開催し、子育てに関心をもってもらうといいのではないか
- 親の孤立感を打開するためには、第三者や地域が介入することが必要
- 働き方の多様化から、ワークライフバランスを整えた社会が子どもにとって幸せな社会になる
- この育成プランに、頑張りすぎない子育て、子育てに一定の答えはない、ということ表現していただきたい
- 望ましい子育て支援は、仕事と家庭の両立支援が整えば安定する

### B : 小・中・高校生のアプローチ

- 高校生が地域と関わる中で、他者と協力する力や生き方を考える機会を増やすことで学びを深め、将来の地域を担う力、子育て力の向上につなげる
  - ・イクメンパパとの交流、ボランティアなど、主体的に高校生が地域と関わる
  - ・生徒たち自身が子育ての課題、舞鶴の未来を考え、多様な人達とともに解決や改善に向けて取り組む過程を作っていたかく（計画策定に高校生の発想を生かせる工夫を）
- 中学生が社会で活躍できる場を作る
- 中学生が子育てを体感する取り組みの効果の検証（城北）
- 大人が子どもに対して「寛容、寛大」な気持ちを持てるような環境を整える（朝は挨拶をしましょう～ 歯磨きをしましょう～ ⇒ 全てが小手先）
- 中学生が乳幼児と触れ合うことは、内面に影響を与え、非常に効果的
- 小中学生と赤ちゃんの触れ合いの取り組みが上がっているが、小中学生自らが自分らもこういうときがあったというところ、周囲の協力によって成長してこれたことを感じてもらえる機会にしてはどうか。「かわいい」で終わるだけではもったいない。
- 幼小、幼中、幼高の学習を年1回取り入れるべき

### C : 世代を超えた子育て支援

- 高齢者は人生の先輩であり、歴史から学ぶ姿勢は重要
- 世代を超えた子育て力向上の取り組みのため、多世代交流・多機能型福祉拠点の整備を
- 愛知県扶桑町では、地域住民が小中学生と一緒に授業を受ける制度があり、人間関係の希薄化の解消、子どもと大人の日常的な結びつきの増加、先生と地域住民の交流が生まれている。

### D : 人財の活用 — 人の確保と質の向上

- 人材の質の向上に向けた保育所、幼稚園等研修の充実
- 保育、教育の人材確保の促進
- 定年後の人が活躍できる場として、学童クラブの支援員として雇用されてはどうか。たとえば「午前中は学校の用務、午後は支援員など」
- 教育、福祉分野の人手不足解消のため、返済不要な奨学金を充実する
- スクールサポーターの活用

## II. 子どもの健やかな育ちを支える仕組み

### E : 子どもの育ちの支援

- 少人数学級、少人数指導の研究
- 質の高い乳幼児教育の推進
  - ・職員、保護者、地域住民への継続的な周知啓発
  - ・職員の資質向上（保育士のキャリアアップ制度、幼稚園教諭の免許更新研修の活用など）
  - ・保育士、幼稚園教諭の人材不足への対応、国の基準以上の配置基準・処遇の向上「人的環境」
  - ・施設の小規模改良、遊具設置など施設の充実「施設環境」
- 子どもの精神面への対応
  - ・子育てに対する親の責任（愛着障害）への対応
  - ・子どもの精神面（心、メンタル面）への配慮
- 親や地域が子どもの心情面にどれだけ訴えるものを残したかが重要
- 読書環境の充実、主権者教育、障害理解、LGBTの教育
- 子どもの健全な成長のためには、舞鶴の豊かな自然を子孫に残すことが大切

### Ⅲ.配慮が必要な子どもと保護者等への支援

#### F : 虐待

- アンケート調査では、虐待対策に関わる回答は出てこない。しかしとても重要な課題である。
- 虐待については、親だけでなく、地域や周囲の人たちに詳しい情報があれば早い発見につながり、若い子どもが傷つくことや若い命が大人に奪われることが少しでも減るのではないか

#### G : 子どもの貧困対策

- 子どもの貧困対策（子ども食堂等）は対処療法であり、親や保護者の根本的対策を講じる。
- 家庭がどんな経済状況であっても、子どもの能力や意思、最大限の教育の機会を均等に与えることが最大の支援、子ども食堂の充実（朝食含む）

### Ⅳ.地域全体での子育て支援

#### H : 家庭、幼稚園、保育所、学校、地域などの連携

- 学校と地域との連携
- 子どもの問題を、皆が関心を持ちあえる社会にしていくことが重要でそのことが市民に伝わるような流れを作る
- 学校教員が様々な課題への対応で多忙を極める中、地域の様々な機関が協働しながら、課題に応じていく環境を整える
- 子育てに関する情報や活動がわかっている、そこへ出られない親は孤立⇒地域のおせっかいなおじいちゃん、おばあちゃんの活躍が期待
- 働き方改革を背景に、教師が動くのではなく、他の大人が関わる取り組みができれば。
- 子どもの支援は、投資の時代へ
- 子育ては近所や町内会、大人のつながりが大切 ⇒ 子どもを通じて地域全体で見て行く

#### I : 情報提供・発信

- 住民、転入者等への丁寧な情報提供
- 機会をみつけての広報、SNSの活用、産科・小児科でのナースからの働きかけ
- 情報発信・情報提供
- 広報まいつるだけでなく、イベントや施設利用の対象となる子どもがいる家庭に配布（予防接種の管理も大変だったため、時期になると何か案内があるといいかなと思う）
- “まいたん”ホームページとSNSを連動する
- お客がたくさん入るお店で、子育て情報の提供を

#### J : その他

- 放課後児童クラブの拡大の可能性や運営のあり方の検討
  - ・舞鶴市は受け入れが3年生までだが、国は6年生まで。  
なぜ3年生なのか、理屈が必要。
  - ・小1ギャップへの対応（親の子育ての自覚と責任）
- 子育てひろばのあり方の検討
- 外国籍の子どもの支援の充実
- 地方への移住要件
  - ・子どもの養育環境が整っていること（三菱総研調査）
- お互いに関心を持ち合える社会を構築するためには、地域通貨を通じた地域社会の構築（藤野地域通貨「よろづ屋」）
- 自殺防止対策
- 不登校対策の推進
  - ・「心身の健康」の検討「子どもの豊かな心身の育成」
  - ・教育の現場での人手、人的配置の充実、
  - ・保護者、本人への寄り添った支援
- 子どもの人権SOSミニレターの活用、SNSを活用した悩み事相談